

奈良県感染症情報

平成 28 年 第 7 週(2 月 15 日～ 2 月 21 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要 ◆気になる話題 ～ジカウイルス感染症について～

！！インフルエンザ警報発令中！！

◆定点把握感染症報告状況(定点あたり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点あたり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	36.50	(34.46)	↑	↑	↑↑	↑
2	感染性胃腸炎	6.03	(6.18)	→	↘	→	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	2.12	(1.76)	→	→	↗	↑
4	流行性耳下腺炎	0.68	(1.00)	↘	↘	↑	↘
5	RSウイルス感染症	0.44	(0.32)	↘	↘	↘	↘

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆県内概況◆

インフルエンザ警報発令中です。県全体での定点あたり報告数は先週に引き続き増加しています。特に中和保健所西部地域では 62.00 と警報開始基準値(30)を大きく上回っています。和歌山県を除く近隣府県でも警報開始基準値を超えています。例年と比較すると遅い時期での流行となっていますがまだまだ流行が続くことが予想されます。県内でのインフルエンザの流行は、A型とB型の混合流行となっているため、1度インフルエンザにかかった方も2回目の感染の恐れがありますので、引き続き人が多く集まる場所へ出かける場合は咳エチケットやマスクの着用、帰宅後の手洗いを励行し感染予防に努めましょう。

感染性胃腸炎、A群連鎖球菌咽頭炎はほぼ横ばい、流行性耳下腺炎は減少しています。

薬局サーベイランスをご存じですか？

奈良県感染症情報センターでは、感染症の流行状況を調査し情報提供しています。インフルエンザの感染症の発生状況を把握する手法の一つとして活用している薬局サーベイランスをご紹介します。

<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/index.html>

薬局サーベイランスは、県内の調剤薬局の方々にご協力いただき、抗インフルエンザ薬の調剤の状況から、患者数・患者年齢を把握しています。調剤した情報(個人情報含まれていません。)が調剤した次の日の午前中には送信され、国立感染症研究所でとりまとめられ、情報公開されます。特色は、前日の大体の患者数が把握できることで、患者数の増減をみる発生動向調査の中では、最も速く発生状況を把握できます。

http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/flu/2015_16/30_nara.html

最新の薬局サーベイランスを見ると(第8週:2月22日～)は、第7週と同程度の患者数のようです。これまで急増を続けていたのが横ばいとなり、非常に多い状態が続いています。インフルエンザの発生動向は、まだまだ目が離せませんので、大変参考にしています。

❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

平成 28 年 第 7 週 2 月 15 日 ~ 21 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	54	11	16	11	11	2	3	
インフルエンザ	1971 (36.50)	351 (31.91)	444 (27.75)	360 (32.73)	682 (62.00)	51 (25.50)	83 (27.67)	
小児科定点数	34	7	10	7	7	1	2	
RSウイルス感染症	15 (0.44)	3 (0.43)	4 (0.40)	4 (0.57)	4 (0.57)			
咽頭結膜熱	14 (0.41)	6 (0.86)	3 (0.30)	3 (0.43)	1 (0.14)		1 (0.50)	
A群溶連菌咽頭炎	72 (2.12)	13 (1.86)	13 (1.30)	7 (1.00)	33 (4.71)	1 (1.00)	5 (2.50)	
感染性胃腸炎	205 (6.03)	33 (4.71)	40 (4.00)	33 (4.71)	83 (11.86)	8 (8.00)	8 (4.00)	
水痘	3 (0.09)	2 (0.29)		1 (0.14)				
手足口病								
伝染性紅斑	15 (0.44)	6 (0.86)	4 (0.40)	4 (0.57)	1 (0.14)			
突発性発しん	3 (0.09)		1 (0.10)	2 (0.29)				
百日咳								
ヘルパンギーナ								
流行性耳下腺炎	23 (0.68)	12 (1.71)	4 (0.40)	1 (0.14)	6 (0.86)			
眼科定点数	9	1	3	2	2	0	1	
急性出血性結膜炎							-	
流行性角結膜炎	5 (0.56)	2 (2.00)		3 (1.50)			-	
基幹定点数	6	1	2	1	1	1	0	
細菌性髄膜炎							-	
無菌性髄膜炎							-	
マイコプラズマ肺炎	6 (1.00)	1 (1.00)	3 (1.50)		2 (2.00)		-	
クラミジア肺炎							-	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	7 (1.17)		3 (1.50)		4 (4.00)		-	

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ()は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核5件(中和5)
3類感染症	
4類感染症	
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌感染症1件(奈良市1)、急性脳炎1件(郡山1)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(中和1)

❖ 第7週のトピックス ❖

◆ジカウイルス感染症の流行:世界における緊急感染対策の計画(WHO) (厚生労働省検疫所)
<http://www.forth.go.jp/topics/2016/02221007.html>

※平成27年2月16日より桜井保健所と葛城保健所は統合され中和保健所となりました。
 旧桜井保健所分は中和(東)、旧葛城保健所分は中和(西)として集計しています。

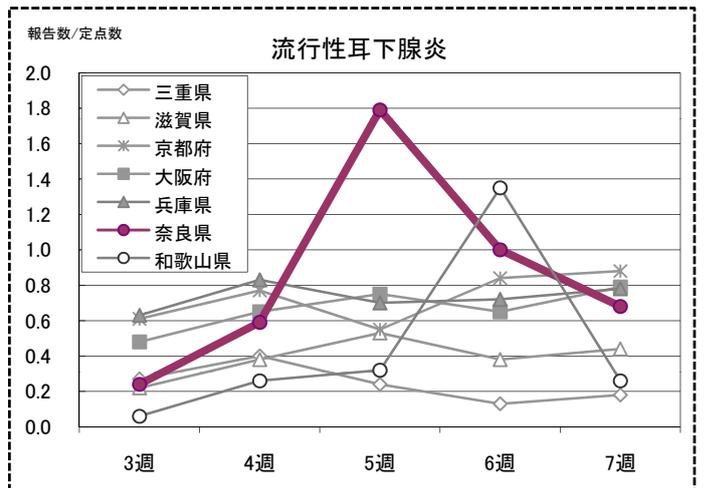
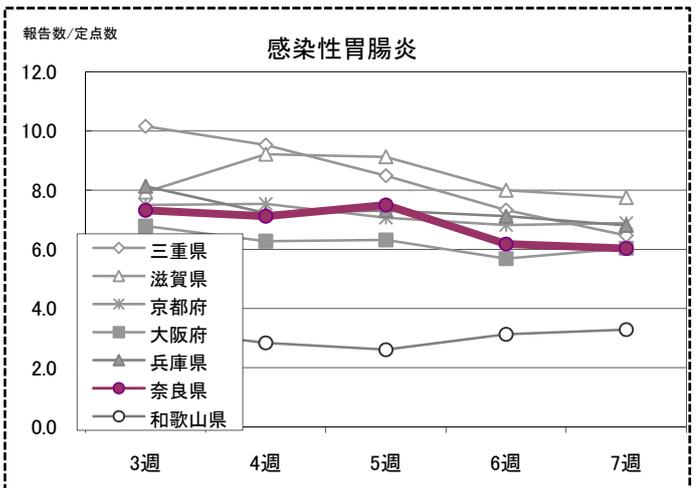
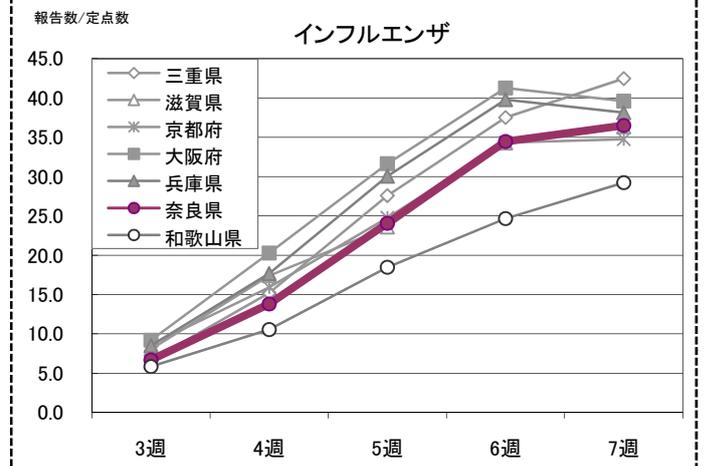
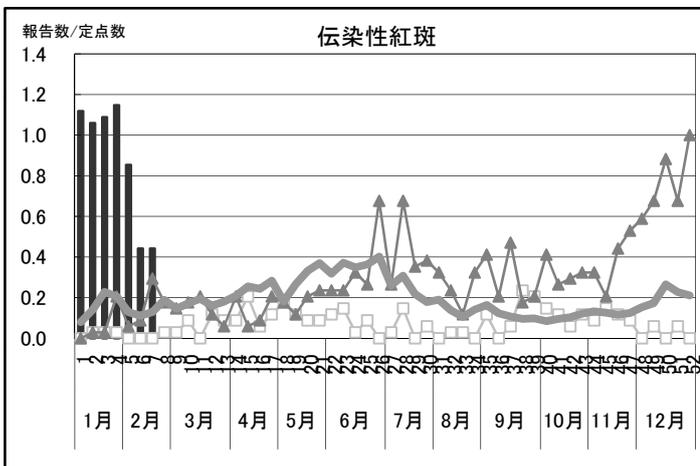
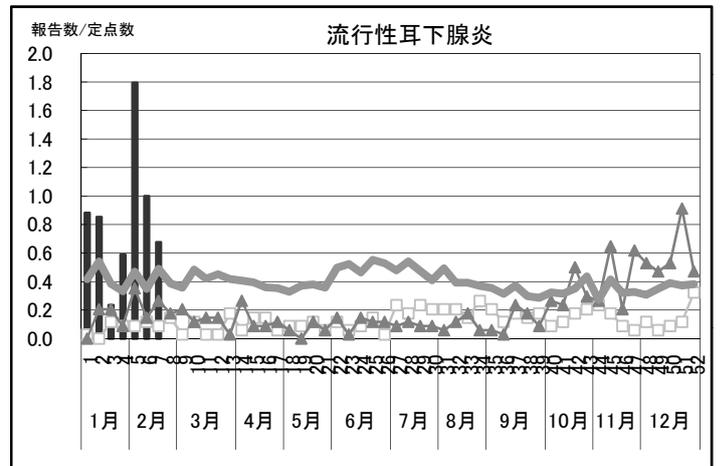
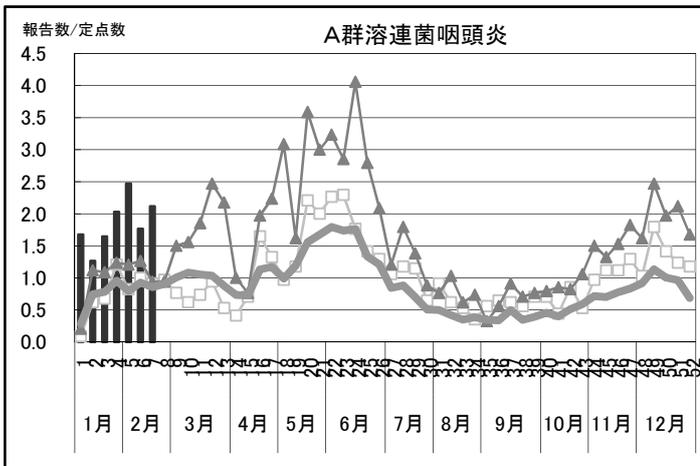
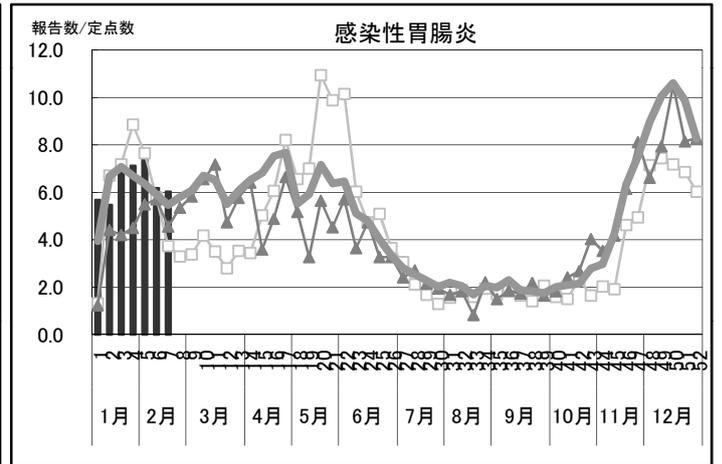
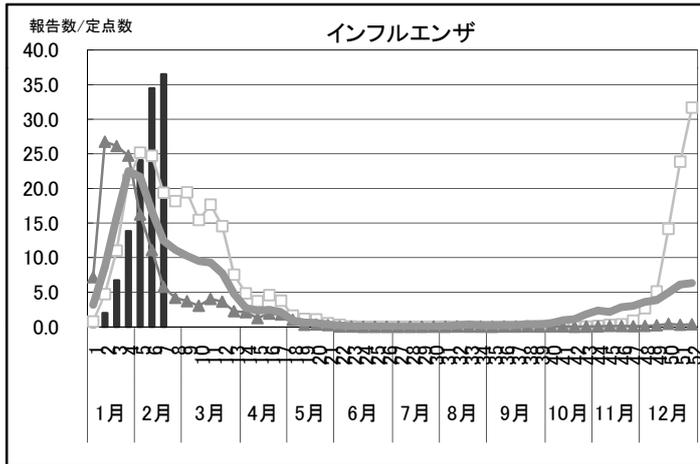
上段:報告数
 (下段):定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計	
インフルエンザ	男	3	8	34	40	53	65	79	78	61	70	54	192	46	29	46	50	44	35	14	1	1002	3269	
	女	1	7	32	38	44	51	77	63	74	70	56	166	36	25	59	73	39	36	17	5	969	3137	
RSウイルス感染症	男	1	3	5	2										1							11	116	
	女	1	1	1																		4	102	
咽頭結膜熱	男			1	1			4		1												7	52	
	女				2	1	2		1						1							7	59	
A群溶連菌咽頭炎	男		1	4	3	2	5	7	5	6	3	1	2									39	229	
	女				3	7	4	4	3	5	2	3	1		1							33	212	
感染性胃腸炎	男	1	2	18	10	9	10	15	7	7	4	3	12	1	10							109	825	
	女		6	15	11	8	7	8	6	5	5	3	8	1	13							96	715	
水痘	男							1														1	45	
	女	1										1										2	27	
手足口病	男																						2	
	女																						1	103
伝染性紅斑	男				1		4	1	1		1											8	10	
	女				1	1	1	1	1	1			1									7	106	
突発性発しん	男		2																			2	62	
	女		1																			1	43	
百日咳	男																							3
	女																							
ヘルパンギーナ	男																						1	
	女																						1	
流行性耳下腺炎	男			1		1		1	1	3		1	1									9	109	
	女				2	2	3		2			1	3		1							14	96	
急性出血性結膜炎	男																						2	12
	女														1				1			3	10	
流行性角結膜炎	男																							
	女															2	1							
細菌性髄膜炎	男																						2	
	女																						1	
無菌性髄膜炎	男																							1
	女																							
マイコプラズマ肺炎	男			2	1																	3	28	
	女			2		1																3	30	
クラミジア肺炎	男																							
	女																							
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男	1	2	1	1																	5	23	
	女			2																		2	13	

❖ 注目疾患の動向 ❖ 全て定点当たり報告数

■ H28 ▲ H27 □ H26 〻 過去10年平均



❖❖ ～ジカウイルス感染症について～ ❖❖

今回は中南米を中心に多数報告され、注目を集めているジカウイルス感染症について情報提供いたします。

◆ジカウイルス感染症とは？

ジカウイルス感染症は、ジカウイルス病と先天性ジカウイルス感染症をいいます。ジカウイルス病は後天的なジカウイルス感染により起こる感染症です。主な症状は軽度の発熱、発疹、結膜炎、筋肉痛、関節痛、倦怠感、頭痛などがあります。先天性ジカウイルス感染症はジカウイルスが母体から胎児への垂直感染により起こる感染症で、小頭症などの先天性障害を起こす可能性があると考えられています。

◆流行地域は？

アフリカ、中央・南アメリカ、アジア太平洋地域。近年は中南米及びその周辺地域で流行しています。

◆どのようにして感染するのか？

デング熱などと同様に、ジカウイルスを持った蚊（ネッタイシマカやヒトスジシマカ）がヒトを吸血することで感染します。ヒトスジシマカは一部の地域を除き、国内に広く生息しています。

基本的に感染したヒトからヒトへの感染はありません（輸血や性行為などの稀なケースを除く）。感染しても全員が発症するわけではなく、症状がないか軽いため気付かないこともあります。

◆予防方法は？

流行地域にでかける際は、肌の露出をなるべく少なくし、蚊に刺されないように注意しましょう。また、現地では蚊の忌避剤なども利用されています。妊婦及び妊娠の可能性のある方がやむを得ず流行地域へ渡航する場合は、主治医と相談の上で、厳密な防蚊対策を講じて下さい。

◆治療方法は？

特有の薬は見つかっていないため対症療法となります。また、有効なワクチンもありません。

◆流行地域で蚊に刺された場合は？

すべての蚊がウイルスを保有している訳ではありませんので、蚊に刺されたことだけで過分にウイルス感染を心配する必要はありません。心配な場合は、帰国時に空港等の検疫所で相談していただき、また帰国後に心配なことがある場合は、最寄りの保健所などに御相談ください。

ジカウイルス感染症の詳細については以下のホームページ等を参考にして下さい。

- ・ジカウイルス感染症について（厚生労働省ホームページ）

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>

- ・海外感染症情報（厚生労働省検疫所ホームページ）

<http://www.forth.go.jp/topics/fragment5.html>

- ・ジカウイルス感染症とは（国立感染症研究所ホームページ）

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/sa/zika.html>

- ・ジカウイルス感染症（ジカ熱）について（県保健予防課ホームページ）

<http://www.pref.nara.jp/42114.htm>